

線形代数学第2 - 期末試験問題 -

電子情報学類1年生(1組)

平成21年度後期 - 2010.2.10 -

1. 実対称行列 A の固有値が $\lambda_1 \neq \lambda_2$ であるとき, これらに対する固有ベクトル x_1, x_2 が直交することを示せ.
2. 任意のベクトル a が $x_1 = [1, 1]^T, x_2 = [1, -1]^T$ を用いて, $a = c_1 x_1 + c_2 x_2$ と表されるとする. さらに, 行列 A により, $Aa = c_1 x_1 - 2c_2 x_2$ になったとする. 行列 A を求めよ (ヒント) 行列 A の固有ベクトルと固有値を考える. $A = SAS^{-1}$
3. 行列の固有値に関する以下の性質を証明せよ.
 - (a) 行列のトレース (対角要素の和) は固有値の和に等しい.
 - (b) 行列式は固有値の積に等しい.
4. 次の微分方程式を解け. また, この微分方程式の解は安定であるか, 不安定であるか示せ.

$$\frac{du(t)}{dt} = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix} u(t), \quad u(0) = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$$

5. 複素ベクトル $x = [1 - i, 1 + i]^T$ と $y = [i, 1 - i]^T$ について, 以下の問に答えよ.
 - (a) 各々の長さ (ノルム) を求めよ ($\sqrt{\text{数値}}$ の形でよい).
 - (b) x と y の内積を求めよ.
 - (c) x と y は直交するか否かを示せ.
6. 実対称行列 A が負定値であるための必要十分条件は次のように表される.
 - (1) 0 でない全てのベクトル x に対して $x^T A x < 0$ である.
 - (2) A の全ての固有値が負である: $\lambda_i < 0$.
 - (3) 部分行列 A_k の行列式は k の変化に対して交互に正負となる: 例えば, $\det A_k > 0, \det A_{k-1} < 0$.
 - (4) A の全てのピボットが負である: $d_k < 0$. 但し, 行の交換はないものとする.
 - (5) $A = -W^T W$ となる正則行列 W が存在する.以下の問に答えよ.
 - (a) (1) から (2) を証明せよ.
 - (b) (1) (2) から (3) を証明せよ (ヒント) 行列式は固有値の積に等しい.
 - (c) (3) から (4) を証明せよ (ヒント) 行列式はピボットの積に等しい.
 - (d) (2) から (5) を証明せよ (ヒント) $A = SAS^{-1}$. また, A が実対称行列であり, 固有ベクトルは正規直交系をなすため $S^{-1} = S^T$ が成り立つ.
 - (e) (5) から (1) を証明せよ.
7. 行列 A, B が正定値であれば, $A^2, A^{-1}, A + B$ も正定値であることを証明せよ.
(ヒント) 行列が正定値である性質 (1) ~ (5) に基づいて証明せよ.